クリスチャンになるまで

聖書を信じる前の自分自身
葛藤、理由、経緯

- ITコンサルでWEB開発者として勤務
  - 英語が必要なので、勉強する環境に行きたいという思い
  - この思いが当初のオーストラリアへの挑戦の理由
- お金に対する執着
  - お金稼ぎに興味があり、お金持ちになる方法を模索
  - 収支改善をサービスとするアプリを開発し、ビジネス展開に向けて行動 — 結果として失敗
- **【ITスキルがあり、ビジネスに好意的】**
- ビジネス書が好きで、自分の行動や思考を変えたい思い
  - 他人の評価を気にしないように、自分で自分を評価する
  - *聖書から学ぶことに抵抗は無かった*
  - ユダヤ教の聖書から抜粋したユダヤの金言集と言うビジネス書がお気に入り
  - No pain, no gainを信じて会社を退職し、オーストラリアへの渡豪を決行
- **【学びから自分を変えることに強い興味がある】**
- 神を否定し、自分の努力が正義
  - 神を信じる人に拒否感、嫌悪感すらある
  - 自分の生きる世界において、神は無価値であり無意味という認識
- 聖書について
  - 昔に少し読んだことはあるが、興味のなさから記憶無し
  - 学びになることがあるという認識はある
- **【無神論者だが、聖書からの学びには興味がある】**

どのようにして変わり始めたのか
きっかけ、聖書の馴れ初め、Stepなど

- 教会に興味をもつ
  - CrossCultureにいく前に、別の教会に行き、話を聞きにいった — また来たいとは思わなかった
  - 少し興味を持っていた聖書に加えて、英語を勉強することができるEnglish cornerに出会う
- ↓ Meetupで見つけた
- English Cornerとの出会い
  - CrossCultureに通うが、事実上出会ってはいない
  - そこでできた友達との交流が増える
- **【教会から学べることに興味がある】**
- ↓ Jenny教えてくれた
- EC Life Groupとの出会い
  - 理解が深まるが、信じることには至らない
  - 英語で聖書を勉強し始める
  - この人たちのようになるにはどうすれば良いのかという思いが芽生える
- ↓ Jenny教えてくれた
- 夕方の教会サービスへ参加
  - 教会サービスへの参加が習慣化した
  - そこで知り合いが出来た
  - 夕方のサービスの後にStepの説明を受ける
- ↓ 知り合った人がたけしさんを紹介
- Japanese ministryとの出会い
  - 何度か参加
  - 仕事の時期と重なり参加が難しくなる
- **【聖書に勉強を始める】**
- （夕方の教会サービスへ参加 → Stepの宣伝 → Stepとの出会い）
- Stepとの出会い
  - 土曜日にとりあえず来てみると、知っている人が０人で困惑する
  - Jacobに会う
    - 始めて会ったにもかかわらず、話をしてくれた
    - Stepの中のLife groupの存在をしり、彼のLife groupについて行く
  - Jeremyに会う
    - アニメ好きと言うことで映画を見にいく
    - 彼のLife groupについてきく
  - Living waterに出会う
    - 交流を測る
    - キリストの愛を体験を持って理解する
  - **【より深いコミュニティへ】**
  - Easter campに行く
    - Life groupを跨いだ交流を測る
    - JesseのセッションでJesusとの関係を理解する
      - 以前はJesusは遠い存在だと思っていた
      - しかし、年上の兄弟だと言う概念を聞き、納得した
    - communionを初めて行う
    - この人たちのようになるにはどうすれば良いのかという思いが強まる
  - **【キリスト教が人に与えた良い影響を知る】**

最後の段階として、信じて告白するきっかけ
祈りを始めてからどう変わったのか、確信に変わった理由やきっかけ

- 決断の助けについて
  - 5月上旬に資金繰りの問題を直視せざるを得ない状況になる
  - 新しい計画の前倒し
  - 神様の計画の一部であると自然と思考し、暗い気持ちから一転して計画を策定
  - まさに暗闇の中の光と言われている意味を体感した
  - **【神様の計画に基づく希望】**
- 信仰によって従来の自分との決別
  - 日本で自分と比較することで日本での生活を改善できる可能性
  - 自己中心的な軸の主張ではなく、確固たる軸の主張による対処
  - 日本文化の良い面と悪い面
    - 自分の力で解決して、向上する力（*失敗や誤りに気が付きにくい*）
      - 他人に迷惑をかけないようにという気遣い
      - 本当の意味では誰も助けてくれないという孤独
      - 聖書によって、神様の力を借りても良いと言う認識
    - 和を重視する、協調性が高い（*自分を見失う原因*）
      - 他人に迷惑をかけないようにという気遣い
      - トップダウンの組織構造
      - 聖書によって、トップダウンの組織構造の指揮命令権への影響
    - **【自己責任と同調圧力】**
  - 考察
    - 出る杭は打たれる 出すぎた杭は打たれない
      - この杭を打つモノの正体の輪郭が視認
      - 全体の大きさは見えない
    - ビジネス書と聖書の違い
      - ビジネス書は自分の手の届く範囲に影響
      - 聖書は自分の周りから自分自身に影響
    - **【視野の拡大】**
    - 親切と偽善者
      - 日本においての親切には理由がある
        - 席を譲ること
          - 社会的信用を得ること
          - 社会的圧力
        - 会社の同僚に奢ること
          - 会社での仕事を円滑にするため
          - 人間関係のため
      - 他人から理由がわからない場合は偽善者として扱われることがある
        - ホームレスへの寄付
        - 見知らぬ人への親切（視認された場合）
      - *検証のための実戦投入が必要*
      - キリスト教であることを公言することで、この対外的に理由が悟れない好意について理由付けをすることが外部から可能になりそうだ（仮説）
    - 自己肯定感
      - 日本での自分の行いは誇ってはいけないと言う暗黙の常識 — 全く誇らないと言うことは自分の行いが良いものであると、みなさないことを意味する
      - キリスト教であるならば弱さを誇り、行いは神が報いるとみなされる
    - **【堂々とした親切】**
    - 日本の宗教観と実態の違い
      - キリスト教は塾のようであり、エホバの証人や創価学会は公立学校のようである
      - 公立学校は、トップダウンで物事が決められている
        - 授業内容などは全て規定されている
        - 無断でカリキュラムの変更は許されていない
        - 公立学校の目的
          - 国全体の生産性の向上
          - 税収の増加
          - など、目的が広く、直接見えにくくなる特性
      - キリスト教は、ボトムアップで物事が決められている
        - 塾では共通のテストで高い点数を取る目標がある
        - この目標のみが共有された独立した組織
        - 教会間に資本関係はなく、関連するメディアはない
        - 塾の目的 — Subtopic
    - **【宗教観と実態】**
- 祈りについて
  - 祈りの対象が理解できた
    - 祈りの意味やJesusの意味が理解できた
    - 以前の認識
      - 何に祈っているのか
      - ただのお願い事と何が違うのか
      - イエスキリストの名に祈るのはなぜだろう
      - **【質問を言語化することが出来なかった】**
  - これにより、精神年齢が１０才上がったような感覚を覚えた
    - 点と点が繋がった瞬間だと推測
    - 祈るという行動が信仰を作り出す（仮説）
- 信仰の自覚について
  - 信じているが認める勇気がなかった
  - Emからcommunionについて指摘される（*最後のトリガー*）
    - 彼女から見ると明らかにクリスチャンである、と言われる
    - 結果として、周りから認められることになる
  - 信仰という言葉の定義
    - 他者基準では信仰の基準を満たしている
    - 生まれてから神を否定して、信仰していなかったため、信仰の定義が自分の中でわからない
    - しかしクリスチャンになるためには自分自身にとっての信仰を定義する必要がある
      - 聖書をもっと学んで信じたいという気持ちがある
      - なので、この状態を信仰していると自分で定義
      - 結果として、信仰しているのでクリスチャンという関係が成立
      - *覆らない前提*
      - 神道への無意識から来る理解や信仰には決してなることはない
  - 信仰の土台
    - 多くのクリスチャンに触れ、教会で会った人のようになりたいと思った — しかし、そのようになりたいは移り変わる可能性がある
    - バイブルそのものが真実であるという認識と、バイブルを学び生かしたいと思う気持ちの差
      - 特定のものに価値を見出すか否かと推察
      - １００万円の価値を信じる人には大きな価値となる
        - １００万円は、円の価値が認められていなければ紙クズである
        - （円の価値は双方向でなければならないが、一旦無視）
        - *価値を信じる基底*
        - 価値とは？ — その円を対価にモノやサービスを受けられる
      - *価値を信じる基底*
      - 聖書の価値を信じる人には大きな価値となる
        - 価値とは？ — 神様の言葉を知ることができる
        - 言い換えると、知ることそのものに価値を感じていると言える
      - 理解されない価値は無価値だが、理解される価値はその通りになる。聖書に価値を見出す人には膨大な価値となる。
      - つまり、、、
        - 働く理由はモノやサービスを受けるため
        - クリスチャンになる理由は神様の言葉を知るため
  - **【自分の中での信仰の自覚と確信】**
- 変化と信仰の告白
  - 信仰について理解し、従いたい思いがありつつも勇気がなかった
  - Stepメンバーへの告白
    - 状況 — 特に驚かれることはなく、祝福される
    - 心境 — 日頃お世話になっている人への改めての感謝を述べる、そんな言葉が詰まる心境
  - 母親への告白
    - 状況
      - 大方想定通りの反応
      - 本人はキリスト教をよく思っていないが、俺自身が良いと思っているなら良い
      - のめり込まないように注意してね、との警告 — のめり込むという表現に違和感を覚える
    - 心境
      - 自分の信じるものを曖昧なものからはっきりとしたものにでき、それを明言することで満を感じた
      - 肯定的ではないものの、否定されなかった点には安堵
  - **【信仰の口外】**

アイデア

- 毛嫌い
  - 嫌っていたのは食べず嫌い
  - 健康的な食べ物と違って、拒み続けても健康には影響がないので無視し続けていた
  - ausで食べてみたら、意外と美味しい
  - 昆虫食を覚えたような感覚が近そう
- 解決できない疑問 — なぜ日本ではキリスト教が空気のような存在なのか？
  - 良い存在とも悪い存在とも思われていない？
  - 悪いと思われているが、触れない方が良い話題と認知されている？
- まとめること
  - ５分くらいの長さでまとめる
  - 以前の自分については容易に書くことが書くことができる
    - 書きすぎないように気を付ける
    - 3割
  - 一番大切なのは、経過の中の物語
    - 半分以上を占めるといい
    - 4割
  - どうして信じてるのか
    - どの瞬間に語ってくれたか
    - 心が変わった瞬間について
    - 3割